

会 議 録

会 議 名 称	平成 27 年度 第 1 回加古川市学校校区審議会
開 催 日 時	平成 27 年 9 月 18 日（金）午後 2 時から午後 3 時まで
開 催 場 所	加古川市役所新館 8 階 181 会議室
出 席 者	<委員>荒木 智子委員、田中 邦彦委員、熊木 勉委員、齋藤 早苗委員、高松 武司委員、木村 眞理委員、山内 貞人委員、西浦 富士子委員 <事務局> 田渕 博之（教育長）、諏訪 あかね（教育総務部長）、日浦 明彦（教育指導部長）、大西 崇文（教育総務部次長）、青山 真二（教育指導部参事（学校教育担当））、吉田 秀司（教育総務課長）、竹中 重夫（学務課長）、乗田 祐治（学務課副課長）、岡本 延也（学務課学事保健係長）、川野 久美子（学務課学事保健係）
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状の交付 3 教育長あいさつ 4 委員紹介 5 会長及び副会長の選出について 6 議事 （1）規定及び平成 27 年度加古川市立小・中学校の就学状況について ①加古川市立小学校及び中学校校区規則について ②就学すべき学校の変更（校区外・区域外就学）について ③児童生徒及び学級数について 7 その他 8 閉会
配 付 資 料	冊子「平成 27 年度第 1 回加古川市立学校校区審議会」

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
1 開会	
2 委嘱状の交付	
3 教育長あいさつ	教育長あいさつ
4 委員紹介	・ 各委員自己紹介 ・ 事務局職員自己紹介 ・ 司会より会議の成立報告

5 会長及び副会長の選出について	・司会より事務局案（会長に高松委員、副会長に熊木委員）を提案。 ・委員より異議なしとの声を得て、会長に高松委員、副会長に熊木委員を選出。
(会長)	会長あいさつ：効率よい進行にご協力いただきたい。
6 議事	(1) 規定及び平成 27 年度加古川市立小・中学校の就学状況について
(事務局)	①加古川市立小学校及び中学校校区規則について 「加古川市立小学校及び中学校校区規則」及び「加古川市立小学校・中学校の校区を定める要綱」に基づき、小学校及び中学校の校区割について説明・報告。
(委員)	質疑なし
(事務局)	②就学すべき学校の変更（校区外・区域外就学）について 「就学すべき学校の変更に関する要綱」に基づき、校区外・区域外就学を許可する基準及び申請・許可状況について説明・報告。
(委員)	質疑なし
(委員)	③児童生徒及び学級数について 平成 27 年 5 月 1 日現在の児童生徒・学級数及び平成 32 年度まで児童生徒・学級数の推計について説明。
(事務局)	児童生徒数及び学級数推計については、各学校長は把握しているのか。
(会長)	各学校長も把握している。
(委員)	小規模校についての状況についてお聞きしたい。児童生徒数を見ると、非常に厳しい状況にある。クラス編成ができない難しい状況にあると思うがどんな状況か。
(委員)	志方東小学校については年々減少してきており、10 人学級もあり、厳しい状況である。 ただ、自然学校、合同マラソン大会、合同鑑賞会のような大きな行事については、志方東小学校と志方小学校、志方西小学校の 3 校合同で行っている。 小規模校ではできないことを 3 校で行うことで、ダイナミックな体験もできるようにしている。

(会長)	また、音楽会、運動会は、単学級では難しいため、2 学年合同で発表している場合もある。 地域の方は、学校がなくなると寂れていくということで、統廃合に否定的な方もいる。保護者の方は、子どもにとって何が大事かということで、統合は仕方ない考える人もいるようだ。 学校としては、今の人数でも子どもたちの成長に関して問題はないということか。
(委員)	人間関係が固定化されるので、10 人余りであっても問題が起こる場合もある。メリットデメリット両方あり、また、地域の方も色々な考えがあるので、様々な会の中で地域の方と一緒に考えていく必要がある。
(委員)	昨年、城の宮地区（平岡東小学校）は平岡南中学校区であるが、平岡東小学校の 9 割が平岡中学校、1 割が平岡南中学校という現状であるため、平岡中学校に行く方が子どもにとってはよいのではないかという意見が地域でもでていたとの話をした。 その後、城の宮地区の方に聞いてみると、住んでいる人の中でも意見が分かれているため、それ以上話が進まないと聞いている。 学校への距離や安全を考えると平岡南中学校でもよいと思うが、人数が 10 名ほどで、バランスの点からも、少し動いたが、地域の方が望んでいなかった。
(会長)	学校が地域の拠点ということで、廃校や校区の変更については様々な意見がある。地域の方の声、何より、子どもにとってよいのかどうかで考えなければならない。
(委員)	人数が減少していることが原因かもしれないが、交通安全指導員が見直しということで、いなくなってしまうのではないかという話を聞いた。人が少なくても多くても危険なところは危険である。
(会長)	交通安全指導員事業の見直しの状況はどうなっているのか。
(事務局)	交通安全指導員事業の見直しという形で、現在、町内会長、PTA 会長、民生委員の方々などに見守りの活動についてのアンケートを実施している。 この意見を参考にしながら、来年度どういう形にしていくかを検討していきたいと考えている。一気になくしてしまうということは、考えていない。
(会長) (事務局)	児童・生徒が減少しているというところからではないということか。 昨年度実施された「公開事業評価」の中で交通安全指導員の議論がな

	され、「不要・凍結」と評価された。しかし、議論の中では、見直し、要改善との意見も多く、今後どのように進めていくのが良いのか、皆さんのご意見を聞いたうえで検討していなければならないと考えている。アンケートを配布した際、交通安全指導員がなくなってしまうのではないかとされている方もいたが、全てなくそうとしているわけではない。
(委員)	見守り隊や色々な人と話しあった方がよい。私は町内会長であり、見守り隊のことはよくわかっているが、考えが伝わってこない。色々な考えがあるのであれば、ぜひ、地元の方と話をした方がよい。
(委員)	校区だけでないが、学校長と色々な話をしながら、子どものためにどうすればよいのかを考えている。少年団について悩んでいる。PTAについては組織的に動いている。学校は、少年団については関係ないといわれるのだが、存続について真剣に考えてもらわなければ、地元だけではなかなか難しい。あった方がよいのかどうかというところまで考えていただきたい。少年団がなくなれば、子供会となるかもしれないが、そうすると地域だけとなる。横のつながりも必要だと思う。議題と違うが、何かの機会にご意見をききたい。
(委員)	民生委員の定例会があり、交通安全の見守り活動に関するアンケートをもらった。凍結ということで、みんな心配して、交通安全指導員がなくなるのではないかという声もあった。ただ、完全になくなるのではなく、見直しを行い、子どもたちの交通事故を無くす方法を考えていくということを聞き、安心した。
(副会長)	神野小学校校区は、陵南中学校と山手中学校に分かれる。割合は、陵南中学校が多いが、校区が分かれてしまうのは、よいのかといった意見がある。 石守地区が山手中学校と陵南中学校で選択できると聞き、確認したが、それは違うようだった。子どもも親も校区で悩まれる話もよく聞く。
(会長)	線引きによって、祭のあり方など、問題がでてくる。 一番大切なのは、地元で育っていく、地域コミュニティが大切である。どこで線をひくかは難しい。 それぞれの地域で工夫しながら、クリアしていただきたい。 色々な問題を出していきながら、考えていきたい。

7 その他 (会長)	議題以外でも構わないので、何かご意見はないか。
(会長)	統廃合については検討していないということであるが、規模が小さいから、なくす、一緒にするという発想ではなく、子どもたちは地域の中で育てられるわけで、デメリットはあるかもしれないが、数が少なくても工夫してやっている。 要綱第3条に、「指定校の変更は、児童生徒の教育上有益であることを第一義としなければならない。」と大事なことが謳ってある。 今後、重要な状況が起こった場合は、ご参集いただくことになる。
(委員)	同じ町内会の中でバイパスをはさんで、違う学校になるところがある。これはよいのか。昔からの経緯があるかもしれないが、市としてどう考えているのか。
(事務局)	具体的な地域はどこか。
(委員)	加古川町河原が、氷丘小学校と氷丘南小学校に分かれている。 この場でなくても、どう考えておいたらよいのかを教えてほしい。 そのままの方がよいのか校区変更を進めた方がよいのか、悩むところである。
(会長)	バイパスで、コミュニティは分断される。 もともと一緒であった町内会が、バイパスができたことにより、交流が途絶えるようになり、町内会を分け、お宮のお祭りも参加しなくなったというようなところもある。 バイパスによって、小学校区が分かれているところもあるが、一部許可を得て、違う学校へ行っている方もいる。本人の意向も含めて、委員会の判断がなされる。
8 閉会	事務局より議事録の公開について説明